

[横浜美術館]

平成 22 年度業務報告及び収支決算

[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体]

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階一部3階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m ²
開館日	平成元年 11 月 3 日

2 指定管理者

共同事業体名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
代表構成団体	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 20 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

3 平成 22 年度総括

平成 22 年度は、第1期指定管理期間の中間年度にあたり、経営状況を再点検し、その基盤強化をはかる運営を重視する年度と位置づけました。

展覧会事業においては、一般に大量の観客動員が見込まれる人気の高い企画や近隣美術館との連携という観点に立ち、メディアと共催する展覧会を3本実施し、多くの来館者を迎え好評を得ました。特に、「ポーラ美術館コレクション展」「ドガ展」においては、西洋近代絵画を取りあげ、当館の専門性を発揮しました。一方、前途有望な若手・中堅アーティストを企画展や小企画で積極的に紹介し支援する先見性も発揮しました。

創造活動支援事業においては、「アートティーチャーズサポーター」と協働した「夏休み子どもフェスタ」、企画展や他施設及び地元と連携した市民のアトリエ講座など、昨年にも増して発信力のある事業を展開できました。今年度から子どものアトリエフリーゾーンを有料化し経営的観点から収支改善をはかりました。

広報関連では、ホームページのバイリンガル化やアンケート回収率の向上に取り組み、成果をあげました。広聴関連では、「広聴反映委員会」を立ち上げ、来館者の意見を運営にフィードバックする仕組みを作り利用者の満足度向上を図ることができました。

第 1 期指定管理期間も残すところ 2 年となり、次期指定管理期間に備え、運営面の課題を洗い出しを行うとともに、非公募選定に向けた設置者との選定手法の協議を行うなど、次期指定管理に向けての検討に着手しました。

4 業務報告

■自主事業に関する振り返り■

(1) 収蔵美術品等の収集・保管・管理について

1) 専門的研究に基づく作品収集

<p>● 内部検討委員会への提案</p> <p>購入候補、寄贈・寄託候補作品について、専門的な観点から必要な調査を行い、その妥当性を検討します。また、調査研究に基き策定した収集候補作品案を内部検討委員会に提案します。</p> <p>当館で紹介した有望なアーティストの作品を、有利な条件で収蔵できるよう交渉します。また、そうした交渉に基き策定された収集候補作品案を内部検討委員会に提案します。</p> <p>従前の収集方針に基づく候補案の策定に加え、横浜市より新たに示された「中期重点取組方針」に基づき、映像作品を含む現代美術、アジアを中心に活動する有望な若手アーティストの作品を調査し収集候補案を策定し、内部検討委員会に提案します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 収集方針および「中期重点取組方針」に基づいて、横浜市民あるいは本市に拠点を置く法人等からの寄贈・寄託候補作品案を提案します。</p> <p>■ 横浜美術館の事業等で取りあげた若く有望なアーティストの作品収集を提案し、歴史的に見て本市とゆかりの深い貴重な美術作品等の収集案を提案します。</p> <p>■ 収集方針および新たに市より示された「中期重点取組方針」の4つの方針に基づき、収集候補作品案を提案します。</p> <p>■ 内部検討委員会における提案:年1回</p>	<p>■ 収集方針および「中期重点取組方針」に基づき、若く有望なアーティストの作品群で構成される賛美小舎の膨大なコレクション(上田コレクション)、コムデ・ギャルソンの斬新な家具、当館の企画展出品作家である金氏徹平や中平卓馬の作品、市内篤志家の真葛焼のコレクションなどの寄贈案件を7月23日の内部検討委員会で提案しました。10月23日の収集審査委員会の審査のための準備に従事し同委員会は無事終了しました。</p>

2) 適切で安全確実な保管・管理の実現

<p>● 収蔵美術品等の正確なデータベース構築</p> <p>美術作品、作家の履歴データを遅滞なく入力します。</p> <p>● 収蔵庫等の保管環境の監視</p> <p>中央監視室との連絡を密にして、環境の異常を遅滞なく把握し、問題点を報告します。また、可能な範囲で対策をとります。</p> <p>● 収蔵美術品等の貸出</p> <p>決められた手続きを踏まえて、美術品等を他施設の事業のために貸与し活用します。</p> <p>● 収蔵美術品等の特別利用(熟覧)</p> <p>決められた手続きを踏まえて、研究者や専門家に収蔵美術品等の熟覧の機会を提供し、当該作品の研究に資します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 収蔵美術品を正確にデータベース管理し、収蔵庫等の保管環境を監視します。</p> <p>■ 適切な手続きに則り、収蔵美術品を国内外の他施設に貸し出し、また、特別利用の機会を提供します。</p>	<p>■ 2月末日現在で、2,423点の作品のデータ修正を行い、所蔵品データベースを訂正しました。</p> <p>■ 中央監視室から毎日提示される収蔵庫・展示室の温湿度データを保存研究チームで確認し、異常がないか監視しました。</p> <p>■ 他館への作品貸出、特別利用(図版貸出・熟覧・撮影)を、2月末現在で下記の通り実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品貸出・返却:22件 34点 ・ 図版貸出:59件 116点 ・ 熟覧/撮影:7件 35点

3) 計画的な修復の遂行

<p>● 修復計画の策定 前年度末もしくは当該年度当初に、収蔵美術品の修復(洗浄、補彩、成形、充填、ルースライニングなど)、新規額装・マット装、新規表装、額・表具の修理などについて、優先順位を決めて、年度修復計画案を策定します。この計画案に基づいて、修復業務を外部専門業者・専門家に委託します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 年度修復計画を、前年度末もしくは当該年度当初に策定します。</p>	<p>横浜美術館フレンズ事業の対象作品を念頭において、下記の作品・資料に修復をほどこしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高橋由一「愛宕山より品川沖を望む」 額に低反射ガラスを装着 ・ 今村紫紅「伊達政宗」附属書翰 裏打ちおよびマット装

4) 調査・研究

<p>● 企画展・コレクション展の内容の検討 作家、作品等に関する学芸員の日常的な調査研究の成果を展覧会の内容に反映させます。</p> <p>● 『紀要』の発行 調査研究の成果を、論文または研究報告の形にまとめ、『紀要』として発行します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 企画展・コレクション展の内容に調査研究の成果を反映させるとともに、『紀要』に発表する論文を準備します。</p>	<p>■ セザンヌおよびセザンヌと同時代の作家群に関する調査研究から得た知見に基づき、ポーラ美術館コレクション展、ドガ展を実施しました。</p> <p>■ 所蔵品に関する研究、コレクションの特質に関する知見に基づき、コレクション展第1期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の展示に取り組み、展示品に親しんでもらうためのツールとして作品解説とワークシートをセットにした『ヨココレファイル』を年度内に5号発行し展示室に設置しました。2本の論文を掲載した『紀要』を3月末に発刊しました。</p>

(2) 美術品等の展示及び活用について

1) 企画展・コレクション展

<p>● 企画展の実施計画(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡 2010年3月20日(土)～6月13日(日) 74日間 入場者見込み 200,000人 ◇ ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ 2010年7月2日(金)～9月4日(土) 57日間 入場者見込み 50,000人 ◇ ドガ展 2010年9月18日(土)～12月31日(木) 93日間 入場者見込み 250,000人 ◇ 高嶺格展 2011年1月21日(金)～3月20日(日) 51日間 入場者見込み 19,000人 <p>● コレクション展の立案・実施 各期のコレクション展において、当該期の企画展の内容に応じてテーマ性を強く打ち出し、コレクションの魅力を多角的に紹介します。</p> <p>● コレクション展・企画展で、ギャラリートーク等の教育普及プログラムを充実させます。</p> <p>● 地域商業施設や関係組織との連携 4本の企画展において、それぞれ、各展覧会の条件・内容に応じて、地域商業施設や関係組織の連携事業の立案・実施に積極的に協力します。</p>	
---	--

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 以下の3点を念頭に置いて、多彩な企画展を開催します。</p> <p>1. メディアとの共催・連携によるポピュラリティの高い展覧会の実施。</p> <p>2. 県下美術館との連携による企画展の実施とコレクション展の連動。</p> <p>3. 向後、さらなる躍進が期待される若手・中堅アーティストの個展の実施。</p> <p>【企画展:年4回】</p> <p>■ 以下の3点を念頭に置いて、多彩なコレクション展を開催します。</p> <p>1. 各期のコレクション展において、当館の代表的な所蔵品をバランスよく展示。</p> <p>◇ 第1期 3月20日(土)～6月13日(日)</p> <p>◇ 第2期 7月2日(金)～1月10日(月・祝)</p> <p>ただし、9月5日(日)～9月17日(金)は、企画展展示替につき、閉室。</p> <p>◇ 第3期 1月21日(金)～3月20日(日)</p> <p>2. 企画展の内容と連関させた展示内容の立案。</p> <p>3. 展示内容の適切な告知・広報。</p> <p>■ コレクション展、企画展における教育普及プログラムを強化し、企画展ごとに地域商業施設や関係組織との事業連携をはかります。</p>	<p>■ 企画展</p> <p>以下の通り、企画展を実施しました。</p> <p><u>1.メディアとの共催・連携によるポピュラリティの高い展覧会</u></p> <p>ポンペイ展 世界遺産:古代ローマ文明の奇跡 総入場者数:212,284人(見込み:200,000人) 地域商業施設との連携: 横浜ロイヤルパークホテル「カフェフローラ」特別ランチ/ホテルニューグランド「イル・ジャルディーノ」特別ディナー、他</p> <p>ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ 総入場者数:77,829人(見込み:50,000人) 地域商業施設との連携</p> <p>ドガ展 総入場者数:352,317人(見込み:250,000人)</p> <p><u>2.県下美術館との連携による企画展の実施とコレクション展の連動</u></p> <p>ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ</p> <p><u>3.向後、さらなる躍進が期待される若手・中堅アーティストの個展</u></p> <p>高嶺格 とおくてよくみえない 総入場者数:15,273人(見込み:19,000人) ※3月11日に発生した東北関東大地震の影響で、地震発生時より3月18日まで閉室。</p> <p>■ コレクション展</p> <p>以下の通り、コレクション展の準備および実施に取り組みました。</p> <p>コレクション展 2010-I 8セクション:213点</p> <p>コレクション展 2010-II 6セクション:211点 ドガ展会期中:6セクション:201点</p> <p>コレクション展 2010-III 8セクション:233点 ※3月11日に発生した東北関東大地震の影響で、地震発生時より3月18日まで閉室</p> <p>ポーラ美術館コレクション展との連動企画: 「フランスの近代写真 都市風景とポートレイト」</p> <p>ドガ展との連動企画: 「日本の洋画:開港から昭和初期まで」「小特集:光と影の彫刻」</p> <p>高嶺格展との連動企画:</p>

	<p>「横浜開港から現代まで:洋画と立体作品」</p> <p>【【特集展示】ヨココレにある奈良美智作品】</p> <p>■ 教育普及プログラム</p> <p>【様々な人に開かれた美術館をめざして】</p> <p>市民、他施設、他機関、外部の専門家との協働により、視覚障がい者、車椅子利用者を対象としたコレクション展鑑賞プログラムの開発に取り組みました。</p> <p>【ヨココレファイル】</p> <p>コレクション展来場者が、展示作品に親しみ、より深い鑑賞ができるようにするための補助ツールとして、作家、作品解説とワークシートをセットにした『ヨココレファイル』（『ヨココレ通信』より改称）を年度内5号発行し、展示室に設置しました。また、来館者によるワークシート投稿を会場内に掲出しました。</p> <p>『ヨココレ通信』（第1、2号）</p> <p>■ 『ヨココレファイル』（第1、2、3号）</p>
--	---

(3) 情報の収集及び情報化、提供及び活用について

1) ニーズに対応した美術情報の提供

- 美術情報センター内に展覧会ごとに関連資料コーナーを設置するとともに、映像資料も紹介し、展覧会事業を支援します。
 - ・ 企画展、コレクション展、アートギャラリー等での展示ごとに、関連資料コーナーを設置。
 - ・ 貴重書や大型本などの資料のガラスケース展示を実施。
 - ・ 展覧会関連の映像資料の紹介。
- 資料の修復や整理に、ホームページを通して積極的にボランティアを公募し受入れます。
- インターネットを通じて広く一般に蔵書検索(OPAC)の公開を行います。
 - ・ 美術情報センター蔵書検索(OPAC)
 - ・ ALC : Art Libraries' Consortium(美術図書館連絡会) 8館10室横断検索
- メールマガジンをはじめとし、美術情報センターのトピックを積極的に掲載します。
 - ・ メールマガジン、ALC : Art Libraries' Consortium(美術図書館連絡会)ブログを活用したセンター事業の紹介。
 - ・ ホームページ上で写真を使った事業紹介などのPR。
- 美術情報センターの認知度を上げるため、様々な普及事業に取り組みます。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術図書と映像を活用して展覧会事業を支援し、トピック的な「特設資料コーナー」を通年約10種設置します。 ■ 美術情報センターで年間を通してボランティアを受入れます。 ■ 美術情報センターの蔵書検索(OPAC)を公開します。 ■ メールマガジンに美術情報センターの紹介を掲載します。 ■ 市民を対象とした美術情報普及事業を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館塾受講生へのオリエンテーションや見学会の開催。 ■ 市民利用者対象の探検ツアー 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展・コレクション展関連資料コーナー 企画展、コレクション展関連の図書資料コーナーを設置したほか、映像資料紹介チラシを作成し、資料紹介を行いました。(各4回、合計8回) ■ 特設資料コーナー 10種のコーナーを設置しました。 4月横浜美術館フレンズ支援作品作家(マグリット/ブランクーシ/高橋由一/長谷川潔)、5月世紀末のイギリス美術、6月アール・ヌーヴォー、7月カラヴァッジオ、8~9月モネ・ルノワール、9月横浜美術館フレンズ支援作品作家(マグリット/ブランクーシ/モロー/C.プレッソン/高橋由一/今村紫紅/下村観山)、11~12月イサム・ノグチ、バルト・モリゾとメアリー・カサット、1月~3月奈良美智、2月岡本太郎) ■ 所蔵資料紹介 書庫保管の大型本、貴重本をガラスケースに展示しました。(2

	<p>回)</p> <p>ミケランジェロ・システィーナ礼拝堂フレスコ画、在外秘宝・浮世絵聚花</p> <p>■ 蔵書検索公開</p> <p>インターネットを通じて当館の蔵書検索および ALC 加盟館(8館 10 室)横断検索を公開しました。</p> <p>■ ボランティア</p> <p>以下の通り実施しました。</p> <p>ファイリング、作家ファイルリスト作成、装備・補修の 3 グループ</p> <p>4 月から 5 月:立案・準備</p> <p>6 月から 7 月:募集</p> <p>8 月から 3 月:活動</p> <p>延べ活動人数:101 人</p> <p>■ 広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メールマガジンに計 2 回掲載しました。 ・ 11/24～26 図書館総合展(パシフィコ横浜/榊ブレインテックブース)における榊ブレインテック蔵書検索システム導入事例紹介の許諾およびパネル・配布資料原稿確認を行いました。 <p>■ 市民を対象とした美術情報普及事業</p> <p>【美術館塾受講生へのオリエンテーション】</p> <p>参加人数:延べ 29 人</p> <p>【探検ツアー】</p> <p>第 1 回</p> <p>9 月:立案、10 月:募集・実施</p> <p>応募者:12 名、参加者 9 名</p> <p>第 2 回</p> <p>11 月:立案、11 月:募集・実施</p> <p>応募者:12 名、参加者 11 名</p> <p>第 3 回</p> <p>3 月:立案、3 月募集(震災のため中止)</p> <p>■ 所蔵品目録の登録</p> <p>所蔵品目録のデータ登録を行い、一部検索が可能になりました。</p> <p>■ 学芸教育グループ研究の補助</p> <p>学芸教育グループ職員が研究のため大学図書館等所蔵資料の閲覧・複写を希望した際、図書館への照会や閲覧時に必要な紹介状の発行を行いました。</p>
--	---

(4) 教育普及に対する取組みについて

1)美術に親しむ市民の拡大

<ul style="list-style-type: none"> ● マンションの集会場でできる簡単な内容と美術館の市民のアトリエでできる専門的な内容を組み合わせたワークショップを開催します。 ● 近隣企業の皆さんが集まる美術館塾の講座を、館外にも教室をつくり開講します。横浜美術館への理解を向上することにつなげます。 ● 産業や環境問題など市民生活に密着した問題に取り組む活動団体と連携し、新たな市民層へ美術との接点を広げる講座を実施することで市民に美術館の存在をアピールします。 ● 10 点の所蔵作品の支援プログラム「横浜美術館フレンズ」について平成 21 年度から参加者を募集します。参加者の特典を開
--

発し、横浜美術館に親近感を持ってもらいます。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣マンション等でワークショップを2回開催します。 ■ 近隣企業と連携して、館外でも講座をおこないます。横浜美術館を広報し、美術に親しむ機会を増やします。 ■ 他団体と連携した内容の活動を年1回行います。 ■ 展覧会との連携講座を年2回開催します。 ■ 所蔵作品の保存と展示に焦点をあてた支援プログラムを発足し、参加者500名を目標に募集します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民のアトリエへの参加者拡大をめざし、みなとみらい市民街づくり協議会の主催する「第1回みなとみらい秋まつり」に参加し、多くの近隣マンション住民と交流し、市民のアトリエの活動をアピールしました。 ■ 他団体との連携では、環境と技能について取り上げ、NPO法人よこはま里山研究所との連携による間伐材の利用や、大岡川で植え替えのために伐採された桜を使用して、横浜マイスターによる印章彫刻(ハンコ制作)の紹介をしました。 ■ 産業や技能等の紹介として、協同組合ギルダ横浜と連携し、横浜スカーフと捺染について、制作体験、工場見学、レクチャーを通して横浜の伝統産業とそのすぐれた技術について知る講座を実施しました。 ■ ポンペイ展開連講座として「ポンペイ展鑑賞～大理石レリーフ制作に挑戦」を実施し、技法の体験を通して展示作品への理解を深めるとともに、参加者自身の創作への意識を高めました。 ■ ドガ展において「パステルでバレリーナを描く」関連講座を実施しました。また、視覚に障がいのある方とない方が対話を通して鑑賞する会を開催しました。 ■ 写真のコレクションを巡るシリーズ「写真史を体感する」ワークショップを横浜市民ギャラリーあざみ野と連携して実施しました。 ■ 横浜美術館フレンズの参加者は127名。初年度の募集目標には届きませんでした。既存の外部類似組織である横浜美術館協力会への配慮で大規模な告知を控えたことが大きな要因と分析しています。 参加者には、前期2回の懇親会をとおして、コレクションへの理解と横浜美術館への親近感をさらに深めてもらうことができました。 ■ 近隣住民や近隣在勤者とMM地区の文化施設が交流する「近隣アートプログラム」を4団体(企業)が発起人となって実施準備を進めています。このプログラムにより、近隣マンションや近隣企業を対象として、今後は美術普及や横浜美術館広報をおこないます。

2) 市民の創作活動等への支援

<ul style="list-style-type: none"> ● 初めての陶芸、初めての絵画、版画基礎等、初めての人達にある程度の技術の習得が体験できる内容。作家や専門家を招聘したり、指導員による技術的、専門的な内容の講座等を開催します。 ● 版画室、平面室、立体室の特性を生かし、市民が自ら制作できる環境を整えたオープンスタジオスタイルの内容で講座を開催します。 ● 市民の中にあるアイデアやイメージをうまく引き出し、美術館の設備や指導員の能力、作家のアイデアや技術を組み合わせた作品作りができる、オープンスタジオ等を実施します。作家のアイデアと市民のアイデアや素材を生かすことのできる生のワークショップを開催します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 初めての人を対象にした内容のワークショップを8回、専 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 立体室、平面室、版画室では、初めての人が基礎的な技

<p>門的な内容の講座 1 種類を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オープンスタジオ年 20 コース開催。 ■ オープンスタジオの中で、市民のアイデアをもとに、市民への技術的アドバイスや協力を行い、作品をつくっていく講座。作家のアイデアと市民のアイデアや能力、素材を生かした内容のワークショップや制作等を行います。 	<p>法を体験、習得ができる講座を実施しました。また、専門的な内容の講座も実施しました。</p> <p>初めての絵画教室、ポンペイ展鑑賞ー大理石レリーフ制作に挑戦、シリーズ「写真史を体感する」など、陶芸技法、版画技法、彫刻講座、絵画講座と初めての方から専門的な内容まで幅広く開催しました</p> <p>また、子どもから大人まで参加できる新聞紙の造形や3D体験、切り絵ワークショップ等市民生活や、現代のニーズこたえる内容も開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 講座開催数 49 コース、参加者数 2,440 人、参加率 87% (3/1 地震後の講座を全て中止にしたため、少し減少しました) ■ アトリエの設備を活用し、またアドバイスにより参加者が自主的にイメージを作品化していくオープンスタジオを実施しました。 <p>オープンスタジオ平面室 オープンスタジオ立体室 オープンスタジオ版画室</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オープンスタジオ開催数 24 コース、参加者数 3,171 人、 ■ 参加率 86% <p>(3/11 地震後の中止により減少しました)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市民のアトリエ平成 22 年度全参加者 5,611 名(86.5%) ■ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム、学校プログラムに参加し、大正中学校で修復家の鈴木淳氏を講師に「ドガ展」に関連させパステルづくりの実演を中心に絵の具の組成についての授業を、1 年生 5 クラスを対象におこなった。また、汐見台中学校では映像作家の楠かつのり氏を講師に。3D 映像についての体験授業を、1 年生 4 クラスを対象におこなった。 ■ 現在活躍する作家の制作を体験する内容、企画展、コレクションに関連する内容の講座を実施しました。
--	--

3)子どもに対する取組み

<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある講座を企画・開催し、各種講座の周知に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のためのプログラム ・ 個人講座 22 講座 ・ 教師のためのワークショップ夏期講座・春期講座の実施 ● 親子のフリーゾーンを開催し、子どもの意欲を育てる「子育て支援」と位置づけ親子に開放します。なお、運営財源の安定化を図るため、利用者に対し材料費程度の受益者負担を導入します。 ● 学校教育と連携したより充実したプログラムを実施します。 横浜市内の幼稚園・保育園 35 園、小学校 35 校、特別支援学校+区ごとの個別支援学級団体+各種学校 20 団体を対象に、素材と関わるワークショップ、および鑑賞活動を行います。 ● プログラム実施にあたって教師との連携を強化します。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ アートティーチャーズデー 企画展ごとに市立小・中・高校の美術教師を対象としレクチャーを開催し展覧会の周知に努めます。 ◇ 講演・研修 放課後や夏休み期間を利用し、教師や学生への研修を積極的に行います。 ◇ 学校と連携して鑑賞教育への導きを行います。 ● 夏休みを活用してコレクションを活用した鑑賞プログラムを実施します。中学校の美術教師を「アートティーチャーズサポーター」として迎え入れ、協働して小・中学生への対応をします。
--

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どものアトリエ講座定員・定数の 100%確保を目指します。 ■ 親子のフリーゾーンを年間 42 回開催します。 ■ 学校のためのプログラム 年間 90 日 ■ アートティーチャーズデー 企画展ごとに 1 回開催 ■ 夏休み子どもフェスタ 2010 の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業実施回数は、事業計画に沿って実施しましたが、3月の個人講座は地震のため中止となりました。目標参加者数は目標をほぼ達成しました。各事業について内容を深めるとともに、研修に力を入れるなど学校連携のより一層の充実を図りました。今年度より「親子のフリーゾーン」を有料化しました。(子ども:無料、大人 100 円) 美術館ホームページ内にブログを立ち上げ子どものアトリエの活動の紹介など新たに開始しました。(「子アト通信」) ■ 個人講座 22 講座中 21 講座終了。21 講座の参加率 116% ■ 親子のフリーゾーン 38 回終了。19,584 人参加。(1 回平均 502 人、有料率 48%) (回数減の理由(APECK 協力のため 2 減、地震による中止 2 減)) ■ 通常の学校のためのプログラム 89 校(1 校行事との重複でキャンセル)、7161 人参加。98% ■ 学校のための鑑賞プログラム(任意) 鑑賞教育に特化した小学校高学年向けの講座を開発するため 3 校 270 人を受入れ、教師との協働による鑑賞プログラムを模索しました。 ■ 教師のためのワークショップ春期・夏期講座、参加率 146% ■ その他、横浜市教育委員会や学生の団体などから依頼のあった研修 14 件(478 人参加)を実施しました。 ■ アートティーチャーズデー4 回開催、99 人参加 ■ 夏休み子どもフェスタ 2010 の開催。 昨年より発足した「アートティーチャーズサポーター」8 人が「子どもフェスタ」で活躍。今年度から新たに公募した「鑑賞ボランティア」10 人、インターン生 5 人も加わって子どもたちの鑑賞のサポートを行いました。8 日間会期 1,487 人の参加者(うち 30%小学生、40%中学生)。 ■ ミニギャラリーで前年に亡くなった熊田千佳慕氏を特集し、会期 2 回でテーマ別の展示をしました。 ■ 営業チームとの協働で 3 回のアウトリーチ実施。8 月天王町商店街、1 月川崎市内幼稚園、県立ライトセンター(視覚障がい者支援施設)でオリジナル教材「デコ車」を使ったワークショップを開催し、合計 171 人の参加がありました。(横浜信用金庫協賛)

(5) 創造活動の支援に関することについて

1) アーティストの創造活動を支援する

<ul style="list-style-type: none"> ● コレクション展等と連動し、横浜美術館から発信するにふさわしい新進アーティストの作品の展示を行います。 ● 黄金町エリアマネジメントセンターのレジデンスアーティストによる地域・市民をつなぐ活動を支援します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新進アーティストによる展示を年 1 回行ないます。 ■ 情報媒体を通してアーティストを発信します。ヨコハマアートナビでの紹介 年 12 回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新進アーティストによる展示 4 月から 9 月にかけて、テーマ設定、作家選定を行い、創造都市事業本部と事業の在り方について協議しました。協議を踏まえ、下記の展覧会を開催しました。

	<p>中谷ミチコ展:境界線のありか</p> <p>2011年3月4日(金)～3月21日(月・祝)</p> <p>※3月11日に発生した東北関東大地震の影響で、地震発生時より3月18日まで閉室。3月27日まで会期を延長しました。</p> <p>■ 最終日3月27日にアーティスト・トークを実施しました。</p>
--	--

(6) その他美術の振興に関することについて

1) 市民との協働・人材育成の推進

<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアの事業参画 美術情報センター、子どものアトリエ等の事業において、ボランティアが参画する場を提供します。 ● インターンを受け入れ、子どものアトリエ等で実地の経験を提供し活動の理論と実践を教授します。 ● ボランティア・モニタリング 企画展やコレクション展の内容について、各年齢層のボランティアによるモニタリングを実施し、向後の事業内容の策定に当たって参考とします。 ● 美術館研修 横浜美術館塾のプログラムのひとつに位置づけられている美術館研修のカリキュラムを、美術館の現場に即して立案し、人材の育成に貢献します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術館の各事業で、随時ボランティアを募集し市民参画の機会を提供するとともに、企画展、コレクション展においてボランティアによるモニタリングを実施します。 ■ インターンを受け入れます。 ■ 美術館研修の魅力的なカリキュラムを立案し、次代の人材育成に貢献します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボランティア <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものアトリエ「親子のフリーゾーン」 4月 応募30人(採用30人) ・ 子どものアトリエ「夏休み子どもフェスタ・鑑賞ボランティア」 6月 応募10人(採用10人) ・ 美術情報センター 4月から5月:立案・準備 6月から7月:募集 8月から3月:活動 延べ活動人数:99人 ・ ワークショップ「様々な人に開かれた美術館術館をめざして」 7月 応募18人(参加18人) ■ インターン <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものアトリエ固有のインターン 4月 応募11人(採用5人) ・ 子どものアトリエ大学連携インターン 8月城西国際大学学生16人(参加16人) ■ 美術館研修 7月中にカリキュラムを立案し、7月19日から31日に実施しました。 美術館研修では、前年度までの満足度調査に基づきカリキュラムを改善しました。定員以上の応募から30名が参加し、10日間に渡って実施。 今年度の満足度は4.7(5段階)で昨年度を上回りました。

2) 文化専門施設との連携事業の展開

<ul style="list-style-type: none"> ● 他ジャンルと交錯した関連事業 企画展において、美術の枠にとらわれない関連事業を立案し、来館者の関心を高めます。 ● 他施設、組織との連携事業

大学との連携により、コレクション展においてポッドキャスト等の美術教育プログラムを試案し、実見します。三溪園との協働により、同園が所蔵する未刊行の史料の調査および三溪旧蔵作品のデータベース化に取り組みます。また、横浜トリエンナーレを支援する枠組みを、NPO 法人と連携して構築します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展ごとに他ジャンルと交錯した関連事業を立案します。 ■ 大学と連携して美術教育プログラムの立案および広報に取り組めます。 ■ 三溪園との連携による原三溪関連資料の調査とデータベース化へ取り組みます。 ■ NPO 法人との連携による横浜トリエンナーレ支援を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他ジャンルと交錯した関連事業 【ボンペイ展】 古代ローマ人 パントマイムパフォーマンス ※ランドマークプラザとの連携事業 『テルマエロマエ』ナイト 【ポーラ美術館コレクション展】 映画や音楽を交えた講演会 講師: 荒屋鋪透氏 日時: 7月31日 14:00～15:30 場所: レクチャーホール 【ドガ展】 「ドガ展」×草月流 9月18日から26日 ドガとバレリーナ 9月26日 ※ランドマークプラザとの連携事業 【高嶺格展】 〔横浜赤レンガ倉庫1号館との連携事業〕 高嶺格演出作品「Melody♥Cup」 日時: 2月19日 15:00～ 2月20日 14:00～/18:00～ 場所: 横浜赤レンガ倉庫1号館 〔相互割引プラン〕 「小谷元彦: 幽体の知覚」(森美術館) 「曽根裕 Perfect Moment」(東京オペラシティアートギャラリー) 【コレクション展】 女子美術大学美術館と連携し、同大学の学生の参加により、視覚障がい者および車椅子利用者のコレクション展鑑賞プログラムの開発に取り組みました。 ■ 城西国際大学メディア学部と連携し、高嶺格展、コレクション展のホームページを制作し、高嶺格展の告知映像を作成しました。 ■ 三溪園との連携により、原三溪関連資料の内、三溪旧蔵の美術品のデータベース化を進めています。 ■ 横浜トリエンナーレ 2011 組織委員会の事務局の一部が館内に設置され、開催に向け連携を始めました。

3)横浜トリエンナーレについて

<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜トリエンナーレに果たす役割 実施前年度の段階で、事務局機能の分担と当館の会場計画に伴う諸問題の整理報告と、必要経費の算出を行います。また、その時点で必要な人材を派遣します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜トリエンナーレ事務局機能の分担と横浜美術館の会場化に伴う経費の算出と問題点の説明、解決案を提案し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 会場経費についての協議は終了しており、契約書締結事務が進行中です。引き続き運営について課題を提示し解

<p>ます。</p> <p>■ 横浜トリエンナーレ実施前年度の事務局機能の在り方に 応じた人材を派遣します。</p>	<p>決してゆきます。</p> <p>■ 横浜美術館館長が総合ディレクターに就任しました。短期 間で質の高い展覧会を実現するために最適な人材を 10/1 付けで配置しました。</p> <p>■ 10/1 付けで横浜美術館内に横浜トリエンナーレグループを 設置し、開催に向けて準備を進めました。</p>
--	--

■施設の運営に関する振り返り■

(1) 施設の提供・利用について

1) 利用者の利便性を踏まえた適切な施設の提供

<ul style="list-style-type: none"> ● 休館日を週 1 回とし、保守点検等施設維持管理に必要な業務を効率的に計画し実施します。 ● 企画展会期中は週 1 回の開館延長日を設け、仕事帰りや観光のお客様に気軽に立ち寄っていただけるようにします。 ● みなとみらい地区が賑わう年末年始は、周辺商業施設と営業日をあわせて休館日を設定し、集客増を目指します。 ● 施設維持管理業務と調整しながら、施設の収益増につながる事業を開催します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 休館日を毎週木曜日とします。 ■ 企画展会期中の毎週金曜日は 20 時まで開館延長しま す。 ■ みなとみらい地区が賑わう年末年始は、年末は12月31日 (ドガ展最終日)まで開館、年始は1月4日(コレクション展) から開館します。 ■ 大規模企画展会期中に効率的に臨時開館を行います。 ■ 休館日を活用した協賛金獲得目的事業などを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポンペイ展においてゴールデンウィーク中は連続開館、20 時まで延長しました。1日平均2,830人に対し、ゴールデン ウィーク期間中の1日平均は4,255人と成果をあげました。 ■ ドガ展において年末12月31日まで開館しました。1日平 均3,690人に対し、12月29日～31日の3日間における1 日平均は7,032人と成果をあげました。 ■ 休館日を利用してメーカー企業とグランドギャラリーや展望 フロアなどを活用して鑑賞会を開催、6件600万円の収益 となりましたが、APECの実施などで試乗会の受け入れが 見送られたため、年度末までに目標額の達成には到りま せませんでした。

2) 施設の有効活用について

<p>【レクチャーホールの利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レクチャーホールの空き状況をホームページで公開し、利用促進を図ります。 ● レクチャーホールを活用した自主事業の展開に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会関連講演会の開催 ・ 団体客を対象とした担当学芸員による事前レクチャー ● 利用率の低い平日に自主事業を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日枠限定の割引プラン等 <p>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グランドギャラリーに掲示するサインに統一感をもたせませす。 ● 総合案内カウンターなどの備品を見直します。 ● 企画展と連動した関連事業の会場として利用します。 ● Heart to Art 事業で協賛いただいた企業と連携した活動の場として活用します。 <p>【8階施設の魅力を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 50名規模の中規模の鑑賞会を定期的実施します。 ● 横浜美術館塾の拠点とします。 <p>【円形フォーラムの積極活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 円形フォーラム予約状況を職員全員がオンラインで共有し、効率的な活用に努めます。
--

- 企画展のオープニングレセプションや関連事業の会場として活用します。
- 内部利用のみならず、外部からの利用希望にも柔軟に対応します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>【レクチャーホールの利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 利用率 60%を目指します。 <p>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エントランス機能として空間を活用します。 ■ 企画展と連動したイベント等に活用します。 ■ 外部と連携した事業に活用します。 <p>【8階施設の魅力を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 小規模の美術鑑賞会や芸術文化活動の場所として、主催、共催形態の商品を開発、販売します。目標売上 500万円。 ■ 横浜美術館塾の教室として活用します。目標売上 250万円。8階の空間を活かし、横浜美術館ならではのアート発信の場として活用を行います。 <p>【円形フォーラムの積極活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会議やシンポジウムなどのスペースとして活用します。 ■ 企画展等の連携事業の会場として活用します。 ■ 外部と連携した活用を行います。 	<p>【レクチャーホールの利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ レクチャーホール年間利用率は 84%でした。平日練習プランが好調でした。今後もこの水準を維持します。 <p>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サイン計画を改善したことで、グランドギャラリーがエントランスとして機能するようになりました。 ■ ボンペイ展において、グランドギャラリー中央奥に大型の券売所を設置し、エントランス機能を発揮しました。 ■ ドガ展関連事業として、グランドギャラリーに外部と連携した展示を行い、賑わいを創出しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 草月流のいけばな ・ チャコット制作の「エトワール」バレエ衣装の展示 <p>【8階施設の魅力を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 8階施設を活用して美術普及を推進しながら、鑑賞会を中心とした収益事業をスタートしました。これまでの営業結果は 3 件 15 万円程度ですが、前期の広報宣伝が着実に利用需要の掘り起こしにつながっています。売上目標達成と来年度の安定した事業展開に向けて、後期は体験デーも実施して販促をしました。 ■ 美術館塾は、美術館研修 1 回 10 日間、取り扱い講座 1 回 3 日間、アートクルーズ 2 回、オープンスクールの対談 1 回を開催、延べ約 150 名が参加しました。学芸員の業務軽減のために講座数を大幅に縮小したことで、対予算収支で 63%の達成となりました。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アートギャラリー1 を参議院選挙(7/11)投票所として提供し、みなとみらい地区の有権者に美術館に親しみをもっていただく機会となりました。今後依頼があった場合は、施設の使用状況を見ながら慎重に対応していきます。

(2) 広報・PR 戦略について

1) 様々な手法による広報の取組

<ul style="list-style-type: none"> ● 美術館の基本的な情報および開催する主要な企画についての情報について英語での情報提供を行います。 ● 美術館の事業に親しみをもってもらえるよう、いくつかの事業の進行状況等を紹介していきます。 ● メールマガジンを定期的に配信し事業実施についての情報提供を効果的に行ないます。 ● 企画展入場者を対象に有効な回答数を得るため一定枚数のアンケート用紙を入場者に直接渡します。 ● 事業に合わせてアンケート調査を行います。 ● 各アンケート調査の結果を参考に効果的な広報につなげます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページをより見やすいものに改善します。 ■ 横浜美術館フレンズを継続します。 ■ リピーター割引を継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページの新たなカテゴリーとして横浜美術館の活動を情報配信する「ヨコビ・チャンネル」をスターとしました。これにより、多数の事業の中から、利用者が必要な情報へア

<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣マンションと連携します。 ■ メールマガジンを定期的に配信します。 ■ メールマガジン登録者数を拡大します。 ■ 企画展ごとにアンケートを実施します。 ■ 事業に合わせたアンケートを実施します。 	<p>クセスしやすくしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 募集キャンペーンを実施してメールマガジンの登録者は前期で20%程度増加し、約4,000人となりました。 ■ 企画展期間中のアンケート収集方法の改善により飛躍的に収集数が増加し、毎回2,000通以上のアンケートからお客様のご意見を採取できるようになりました。その結果を運営に反映させるための広聴反映委員会も立ち上げました。
---	---

2) 情報提供

<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページで各企画展、コレクション展を分かりやすく紹介します。英語による表記を取り入れ外国人へも美術館の情報を分かりやすく提供します。 ● メールマガジンを活用しタイムリーにリピーター層に情報を提供します。 ● メディアへの情報提供を積極的におこない幅広い層に分かりやすく情報を提供します。 ● メディアと共催する企画展を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡 日本テレビ放送網と共催 ・ ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ TBS、(公財)ポーラ美術振興財団ポーラ美術館と共催 ・ エドガー・ドガ展(仮称) 読売新聞東京本社、NHK、NHK プロモーションと共催 ● 各企画展を中心にプレスリリース、記者発表を積極的に行い、事業の事前周知および成果を周知していきます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページをバイリンガル化します。 ■ メールマガジンを活用し情報を配信します。 ■ メディアを活用した情報提供を行います。 ■ メディアと共催する企画展を実施し、積極的に情報を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページに英語サイトを開設してバイリンガルにしました。 ■ 毎月2回と臨時便でメールマガジンを配信。美術館事業の周知に努めました。

(3) 顧客サービスについて

1) 新規顧客の開拓

<ul style="list-style-type: none"> ● 共同事業体である三菱地所ビルマネジメントが管理するランドマークプラザをはじめとする近隣商業施設とタイアップし、広報を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展の半券提示で飲食店割引 ・ ランドマークスカイガーデンと連携した商品開発 ● 近隣宿泊施設とタイアップして宿泊プランや展覧会特別限定メニューを企画します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展ごとに周辺商業施設と連携し、誘客方策を展開します。 	<p>近隣商業施設と積極的に連携を行いました。相互で広報を行うことで集客につながり、お客様へのサービスにも貢献できました。</p> <p>【ポンペイ展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 周辺レストランで特別メニュー提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜ロイヤルパークホテル 「カフェフローラ」 ・ ホテルニューグランド 「イル・ジャルディーノ」 ・ キハチイタリアンクイーンズイースト ・ T's

	<ul style="list-style-type: none"> ・ カフェ小倉山 ■ 半券提示で割引や特典 ・ ランドマークプラザの飲食店 ・ クイーンズイーストの飲食店 【ポーラ展】 ■ 周辺レストランで特別メニュー提供 ・ パンパシフィック横浜ベイホテル東急 「クイーンアリス」「ソマーハウス」 「トゥーランドット」 ・ カフェ小倉山 ■ 半券提示で割引や特典 ・ ランドマークプラザの飲食店 ・ クイーンズイーストの飲食店 【ドガ展】 ■ 周辺レストランで特別メニュー提供 ・ 横浜ロイヤルパークホテル 「カフェフローラ」 ・ ホテルニューグランド 「イル・ジャルディーノ」 ・ キハチイタリアンクイーンズイースト ・ T's ・ カフェ小倉山 ■ 半券提示で割引や特典 ・ ランドマークプラザの飲食店 ・ クイーンズイーストの飲食店 ■ ランドマークスカイガーデンとのセット券 【高嶺格展】 ■ 半券提示で割引や特典 ・ ランドマークプラザの飲食店 ・ クイーンズイーストの飲食店
--	---

2)リピーターの獲得

<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜美術館フレンズを運営します。 ● リピーター割引を継続します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観覧済みの企画展有料チケットの半券提示で団体割引とします。 ● 希望する団体入館者に対し、担当学芸員の事前ミニレクチャーを行います。 ● 観光バスと連携し、企画展を組み込んだツアーを企画します。 ● 約 7,000 人の近隣マンションの居住者を有望なリピーターとして、情報提供、特典の提供等を行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜美術館独自の支援プログラムを運営します。 ■ リピーター割引を継続します。 ■ 継続的な団体客誘致の取り組みを行います。 ■ 近隣マンション自治会と連携します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜美術館のコレクションの展示・保存に支援していただく横浜美術館フレンズを運営しました。 ■ リピーター割引利用実績は、ポンペイ展 446 人、ポーラ展 339 人、ドガ展 846 人、高嶺格展 74 人でした。安定して利用されているので今後も継続します。 ■ 学芸員事前レクチャー ポンペイ展 12 団体、ポーラ展 8 団体、ドガ展 22 団体、高嶺格展 1 団体でした。 団体のお客様に定着しつつあります。今後も学芸員の体

	<p>制と調整しながら受入れを行います。</p> <p>■ 近隣マンションの自治会の協力を得てチラシラックを設置し、横浜美術館の展覧会情報を配架しました。</p>
--	---

3) チケット販売

<ul style="list-style-type: none"> ● メディアと共催する企画展でペアチケットや早割りチケットなどの企画チケットを商品化し販売します。 ● オンラインミュージアムショップでの企画展前売券販売を目指します。 ● 企画展前売券を展覧会開始日の2ヶ月前からミュージアムショップで販売します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ペアチケットや早割りチケットなどを企画展に応じて取り入れます。 ■ オンラインミュージアムショップでの企画展前売券販売を検討します。 ■ 企画展前売券は2ヶ月前から販売します。 	<p>客層にアピールする特別チケットを企画・販売しました。事前の顧客獲得と広報効果に成果をあげました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ポンペイ展 <ul style="list-style-type: none"> ・ 早割ペア券 販売実績 169 セット ・ オリジナル T シャツ付前売券 販売実績 8 セット ■ ポーラ展 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水曜限定レディース券 販売実績 665 セット ・ 金曜限定ペア得ナイト券 販売実績 101 セット ■ ドガ展 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア券 販売実績 4,493 セット ・ スカイガーデンセット券 販売実績 7,554 セット ■ 前売券 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展(3/20～)1月11日販売開始 ・ ポーラ展(7/2～)3月19日販売開始 ・ ドガ展(9/18～)5月21日販売開始 ・ 高嶺格展(1/21～)10月1日販売開始

(4) 館内サービスについて

1) 魅力あるミュージアムショップの運営

<ul style="list-style-type: none"> ● ミュージアムショップから展覧会へお客様を誘導する工夫をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会関連商品コーナーの設置。 ・ 企画展前売券の取り扱い。 ● 他館のオリジナルグッズを相互販売します。 ● 他施設と連携したチケット販売を行います。 ● 近隣商業施設とタイアップし、展覧会関連商品を美術館の外でも販売します。 ● プライスカードなどデザインを一新します。 ● 企画展のお客様動線上に特設売店を設置します。 ● メディアと共催する企画展では展示構成の中に特設売店も組み込み、充実した品揃えで臨みます。 ● 特設売店の設置にあたっては、常設ミュージアムショップと相互にメリットがでるよう取扱商品を事前調整します。 ● 企画展前売券をオンラインで販売する検討を始めます。 ● 代金の徴収方法や送料について、わかり易いオンラインショップのホームページ構成を心がけます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 展覧会に入館しなくても自由にアクセスできる立地を活かした運営を行います。 ■ 周辺施設や他館と連携した運営を行います。 ■ 店内のイメージをアップします。 ■ 展覧会ごとに特設売店を設置し売上げアップにつなげます。 ■ お客様ニーズに応える商品を取り扱います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 展覧会休室中に立ち寄られたお客様へのサービスとして、また次回展の前売券販売箇所として有効に機能しました。 ■ 開催中展覧会の図録を TSUTAYA みなとみらい店及びくまざわ書店ランドマーク店でも販売しました。 ■ 過去展覧会図録や商品について首都圏美術館を中心に販売を委託しました。委託先 10 社。

<ul style="list-style-type: none"> ● 館内でのクレームは顧客サービス員、顧客サービスディレクター、職員で、丁寧に対応します。 ● アンケート、Eメールでのクレームには広聴担当が窓口となり、迅速に回答します ● 発生したクレームは、報告書として事実関係と対応を記録して職員で情報共有し、市のモニタリングで報告するとともに事後の改善に役立てます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ クレームに対して迅速・適切に対応します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生したクレームは顧客サービス員の日報、職員の報告書で対応策を含め情報共有し、一定の対応を行っています。ドガ展開幕以来、鑑賞環境の保全のためにお客様に対応したケースがあり、早急に対応マニュアルが必要となっています。三菱地所ビルマネジメントと協力し、作成中です。 ■ ホームページに寄せられたクレームには広報チームが窓口となり、適切に対応しました。 ■ アンケートとEメールでのお客様のご意見には即日で回答しています。

(6) 組織体制について

1) 専門性が十分に発揮できる組織と組織運営

<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な分野、専門性を有する学芸員・指導員・情報担当職員を適切に配置します。 ● 隔週の定例会としてグループ長会議とチームリーダー連絡会を開催し情報共有と意見交換を行います。 ● 上記会議での議事及び決定事項は職員で情報共有します。 ● 共同事業体構成員の定例ミーティングを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財団と三菱地所ビルマネジメント定例会を月1回開催します。 ・ 財団と相鉄エージェンシーとの打ち合わせは、企画展ごとのプレスリリース及び協賛獲得支援の案件ごとに開催します。 ● 財団他施設の友の会組織向けにレクチャーつき鑑賞会を企画し観客誘致を図ります。 ● 周辺商業施設と連携した相互割引や、近隣ホテルと連携した宿泊プラン、ホテル内レストランでの特別メニュー提供などを行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画に基づき計40名を配置します。 ■ 学芸教育グループと経営管理グループの2グループ制が効率良く機能するように体制を整えます。 ■ 共同事業体間の情報共有と連絡調整を図ります。 ■ 財団他施設や周辺施設との連携を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画どおり職員を配置しています。 ■ 隔週金曜日にチームリーダー連絡会とグループ長会議を開催し、情報共有と課題検討を行い、館の方針を決定しています。 ■ 三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月1回行い、施設管理・運営面での情報共有と改善案を話し合いました。 ■ 企画展ごとに他施設の友の会を対象としたレクチャー付鑑賞会を実施しました。(みなとみらいホール、能楽堂) ■ 企画展連携事業を近隣施設と実施しました。 <p>【主な連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランドマークスカイガーデンセット券 ・ ランドマーク、クイーンズスクエア飲食店とのタイアップ ・ 近隣ホテルの展覧会宿泊プラン及びホテルレストランでの特別メニュー企画 <ul style="list-style-type: none"> ■ 加盟している(社)横浜みなとみらい21との連携により、みなとみらい地区の会員店社の事業・広報調整を実施しています。

■施設の管理に関する振り返り■

(1) 安全、安心、安定、快適な施設の維持管理について

- 事故を未然に防ぎ、安全に施設を維持管理するため、職員、設備スタッフ、警備員、顧客サービス員、清掃スタッフのすべてが、現場の状況について気を配り、問題が発生した場合は迅速に対応します。
- 発生した問題と対処までの経過は報告書を作成し館内で情報共有します。
- バリアフリー研修を行います。
- 収蔵庫、展示室の温湿度管理の基準を保ち、必要に応じて現場を確認しながら作品保全に努めます。
- 展覧会場に顧客サービス員を適切に配置します。
- 展示作品の安全な管理のため、会期前に顧客サービス員、警備員、清掃員を含む施設管理担当スタッフが担当学芸員から展示会場全体の取り扱いについて説明を受け、安全を確認します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同事業体の専門性を活かした安全な施設運営を行います。 ■ バリアフリー研修を年1回実施します。 ■ 展覧会ごとのスタッフによる事前安全確認 企画展 4回 コレクション展 3回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各所からの日報を共有し、対応が必要な箇所は設備担当者へのアドバイスを受けながら修繕・改善をはかりました。 ■ バリアフリー研修を行いました。 3/25(金)及び3/28(月) ■ 展覧会開始前の事前安全確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展及びコレクション展第1期 3/17(水)実施 ・ ポーラ美術館コレクション展及びコレクション展第2期 6/30(水)実施 ・ ドガ展及びコレクション展第2期 9/15(水) ・ 高嶺格展及びコレクション展第3期 1/19(水)実施

(2) 適切な環境維持管理について

- 三菱地所ビルマネジメントのみなとみらい21地区エリアマネージャーが横浜美術館も統括し、スケールメリットを活かした運営を行います。
- 施設管理部門の複数の業務を指定管理期間にわたって一括管理することで事務の軽減をはかり、業務の効率化につなげます。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同事業体の専門性を活かして適切に施設を維持管理します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月1回行い情報共有を行いました。 ■ 三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、清掃、顧客サービス、警備、レクチャーホール管理からの日報を館内で共有し、問題点には適切に対応しました。

(3) 環境への負荷の軽減について

- ゴミ置き場の分別表示をわかりやすくし、正しい分別がなされるように工夫します。
- 不適切な分別が見られる場合は迅速に注意喚起を促します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ごみの分別が正しく行われるようスタッフの意識を向上させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 表示や配置を工夫し、分別しやすいようゴミ箱を設置しました。 ■ ポンペイ展、ポーラ美術館コレクション展、ドガ展に常駐した外部業者スタッフ及びワーキングルームに事務局の一部を移した横浜トリエンナーレ組織委員会スタッフに対し、ゴミ分別について事前徹底をはかりました。

(4) 施設予防保全への取組みについて

- 三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、顧客サービス、警備、清掃、レクチャーホールからの日報を館内で情報共有し、

<p>施設の不具合に対しては最善の対応策を館内で検討・実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発見された不具合については改善策を策定します。額により必要に応じて横浜市に改善案を提出します。 ● 共同事業体で負担すべき修繕は優先順位を考慮して実施します。 ● 施設管理スタッフの定例会を開催し、現場の声を運営に活かすよう努力します。 ● 業務の基準に従って保守点検を行います。 ● 修繕の必要な項目をリストアップし、優先順位をつけ横浜市に報告、提案します。 ● 横浜市の工事については、仕様書の作成やスケジュール管理に協力し、より効率的に作業が進むように努めます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 三菱地所ビルマネジメントを中心とした共同事業体のスタッフ体制で統括マネジメントを行い、施設の不具合の早期発見と改善を行います。 ■ 施設管理スタッフの定例会を月1回開催します。 ■ 業務の基準に基づき適切に管理します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 月1回の施設管理スタッフ定例会を計画どおり行っています。 ■ 業務の基準どおり管理を行っています。

■ 収支目標に関する振り返り ■

(1) コスト削減への努力

<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業のチーム編成を効率化し、超過勤務時間削減等コストの削減をはかります。 ● 施設管理部分を三菱地所ビルマネジメントが指定管理期間を通して統括管理することで、共同事業体の中にノウハウを蓄積し業務の効率化をはかります。 ● 展示室や情報センターの運営日を効率よく設定し、ランニングコストの削減をはかります。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務の実施体制を見直し組織改編をはかります。 ■ 施設の効率的な運営によりコスト削減をはかります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展とコレクション展の会期を統一します。 ・ 美術情報センターの蔵書点検を展覧会休室期間に設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織改変 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術情報センターを経営管理グループから学芸教育グループに移管しました。 ・ 独立した広報チームを編成し、低コストで効果的な広報に努めました。きめこまかい取材対応やホームページを利用した露出、スタッフブログの開設など、成果をあげています。 ■ 企画展とコレクション展の会期を統一したことで施設管理費を削減できたほか、効率よく保守点検や修繕計画をたてることができました。

(2) 収入向上への努力

<ul style="list-style-type: none"> ● メディアと共催する企画展を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡 日本テレビ放送網と共催 ・ ポーラ美術館コレクション展「印象派とエコール・ド・パリ」 TBS、(公財)ポーラ美術振興財団ポーラ美術館と共催 ・ ドガ展 読売新聞東京本社、NHK と共催 ● 団体客を誘致するため、福利厚生団体との連携や観光バスツアーへの展覧会組込み、事前レクチャーの実施などに積極的に取り組みます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収益の見込める企画展を開催します。 ■ 団体客誘致に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 収益を見込んだメディアタイアップ展 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展、ポーラ美術館コレクション展、ドガ展ともに目標を達成できました。 ■ 団体誘致実績 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンペイ展 55 団体 ・ ポーラ美術館コレクション展 30 団体

	■ ドガ展 119 団体
--	--------------

(3) 外部資金導入、広告等獲得の拡大

● Heart to Art 事業、美術館フレンズ事業のファンドレイズと、広報展開を目的とした商業撮影(施設利用)協力、美術鑑賞会、美術館塾経営を実施します。	
達成指標	事業報告(振り返り)
■ 達成目標 20,000,000 円	■ ファンドレイズと平行して、施設を利用した営業努力もしましたが、APEC の実施などで試乗会の受け入れが見送られたため、年度末の対予算収支目標の 50%となりました。

■ その他の計画に関する振り返り ■

(1) 危機管理対策の充実について

<ul style="list-style-type: none"> ● 消防訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります。 ● 消防計画を作成し運用します。 ● 事業実施にあたり概要を所轄消防署に届け出ます。特例認定を受けているグランドギャラリー大屋根下部分でのイベントは事前に所轄消防署と協議を行い、適切に運営を行います。 ● 危機管理マニュアルを必要に応じて改定し、最新のものを職員に周知するとともに、事務室内に常備します。 ● 毎日の現金管理を確実にいきます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防訓練を年 2 回実施します。 ■ 消防法を遵守した施設管理を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展及びイベント開催ごとに消防署に届出を行います。 ■ 危機管理マニュアルは常に最新のものを整備します。 ■ 安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を毎日数え、現金有高表を作成します。 ■ 毎日の売上げ集計は複数名で確認して、確実にいきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回消防訓練 7/28(水)実施 みなとみらい地区での APEC 開催に備え、西消防署と合同で薬物散布テロ想定訓練を行いました。 ・ 第 2 回消防訓練 3/29(火)実施 ■ APEC への対策 11/7～14 リーダーズウィーク期間中の利用者に必要な情報提供を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期駐車場利用者 駐車証を美術館で一括申請しました。 ・ レクチャーホール利用者 チラシ、チケット等に公共交通機関の利用案内を主催者にお願しました。 ■ 危機管理マニュアルは最新のものを全職員に周知しています。 ■ 金庫内の現金は毎日数え、過不足がある場合は原因を明らかにして対処しています。 ■ 毎日の売上げは、券売システム集計との一致を確認後、複数名で現金を確認し入金しています。

(2) 自己評価、PDCA サイクルの導入と確実な運用について

<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展終了時に入館者数や収支、広報実績等をまとめ、評価及び反省点を館内で協議し、今後の計画に反映します。 ● アトリエや横浜美術館塾などの講座については、定員達成度やお客様の声を定期的にとりまとめ、館内で協議するとともに、次回の計画立案に活かします。 ● 外部の意見を取り入れて運営を改善するため、3名の経営アドバイザーを選定し、年 2 回会議を開催します。多角的に意見を取り入れるため、アドバイザーは経営分野、マーケティング分野、学芸分野からそれぞれ 1 名ずつ選定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 任期は平成 22 年度～23 年度の 2 年間とします。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
■ 事業ごとに個別事業評価で自己評価を行い、次の事業計	■ 財団の個別事業評価システムにより自己評価を行いまし

<p>画に反映します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 年に2回事業全体を振り返り自己評価します。中間振り返りを10月に、年間振り返りを翌年度4月に行います。 ■ 経営アドバイザー会議については、引き続き開催を予定し、子どものアトリエ企画運営委員会開催後、あわせてそのあり方を検証します。 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 10月に中間振り返りを、翌4月に期末振り返りを行い自己評価を行いました。 ■ 経営アドバイザー会議と子どものアトリエ企画運営委員会のあり方を検証しましたが、それぞれ主旨が異なるものであるため、今後も従来どおり存続します。 第1回経営アドバイザー会議 9/21(火)開催 第2回経営アドバイザー会議 2/22(火)開催
---	---

(3) 情報公開、説明責任の的確な実施について

<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報保護研修を職員全員を対象として実施します。 ● 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算をホームページに公開します。 H21 事業報告及び収支決算 財団評議員会承認後1ヶ月以内 H23 事業計画及び収支予算 財団評議員会承認後1ヶ月以内 ● 新収蔵作品目録2009年度版を発行します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報保護研修を年1回実施します。 ■ 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算を評議員会承認後1ヶ月以内にホームページで公開します。 ■ 新収蔵作品目録を作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報保護研修を2回実施しました。 ■ ホームページへの公開 目標どおり公開しています。 ・22年度業務計画及び収支予算 4/4 公開 ・21年度業務報告及び収支予算 6/19 公開 ・23年度業務計画及び収支予算 3/21 公開 ■ 新収蔵作品目録2009年版を作成しました。

5 決算

平成 22 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	536,359,400	
利用料金	74,791,575	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)
事業収入	515,536,745	企画展、アトリエ、美術館塾
助成金等	23,656,760	企画展・観客誘致協賛金助成金等
その他収入	139,910,354	ショップ、駐車場、カフェ等
合計	1,290,254,834	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	281,376,328	旧一般会計分
事務費	155,107,743	消費税、券売システム、経理・金融システム利用費
管理費	105,111,346	施設管理経費等
事業費	191,530,956	企画展、コレクション展、アトリエ、観客誘致、学芸業務、図書事業等
負担金	434,719,420	年会費等負担金
その他の支出	97,247,360	ショップ、駐車場等経費
合計	1,265,093,153	

収支差額	25,161,681	
------	------------	--

6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
グループ長	4	経営管理グループ長1 学芸教育グループ長1 創造活動支援担当グループ長1 マーケティング担当グループ長1
チームリーダー及び担当リーダー	9	経営管理チームリーダー1、主任学芸員3、主任コーディネーター1、担当リーダー4
職員	25	経営管理グループ 11 学芸教育グループ 14
計	40	学芸員12 指導員7 司書3 事務職18

7 平成 22 年度事業一覧

事業名	開催日	主催・共催・後援・協力	入場料 受講料	目標 人数	入場者 合計
ポンペイ展 世界遺産:古代ローマ文明の奇跡	3/20- 6/13	主催:横浜美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社、ナポリ・ポンペイ考古学監督局 協力等:協力(予定):日本航空、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、みなとみらい線、BS日テレ、シーエス日本、横浜ケーブルビジョン、横浜市ケーブルテレビ協議会、tvk コミュニケーションズ(サービスカンパニー)、ラジオ日本、文化放送、J-WAVE、FMヨコハマ	一般 1400 大高 1100 中学生 800	200,000	212,284
ポーラ美術館コレクション展——印象派とエコール・ド・パリ	7/2- 9/4	主催:横浜美術館[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体]、TBS、神奈川新聞社、tvk、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館 協力等:JR 東日本、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社	一般 1300 大高 800 中学生 400	50,000	77,879
ドガ展	9/18- 12/31	主催:横浜美術館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション共催:共同企画:オルセー美術館 協力等:みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社	一般 1500 大高 1200 中学生 600	250,000	352,317
高嶺格:とおくてよくみえない ※震災の影響により3月12日から17日まで臨時閉館。	1/21- 3/20	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体) 協力等:NEC ディスプレイ・ソリューションズ /NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター/横浜トリエンナーレ組織委員会/横浜トリエンナーレサポーター事務局	一般 1100 大高 700 中学生 400	19,000	15,273
横浜美術館コレクション展 第1期	3/20- 6/13	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	一般 500 大高 300 中学生 100	203,000	215,313
横浜美術館コレクション展 第2期 ※9月5日から9月17日は、企画展展示替につき、閉室	7/2- 1/10	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	一般 500 大高 300 中学生 100	307,000	427,757

横浜美術館コレクション展 第3期 ※震災の影響により3月12日から17日まで臨時閉館。	1/21- 3/20	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	一般 500 大高 300 中学生 100	21,000	18,388
126 POLAROID	8/7- 8/29	主催:横浜美術館、学校法人多摩美術大学、サミット・グローバル・ジャパン株式会社	-	4,000	4,100
若手作家支援(若手人材育成)事業 中谷ミチコ展:境界線のありか ※震災の影響により3月12日から17日まで臨時閉館。3月27日まで会期延長	3/4- 3/23	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)共催:横浜市 APEC・創造都市事業本部 協力等:協力:NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター、竹内化成株式会社、日新レジン株式会社、東京ロストサービス販売株式会社、アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社	-	2,700	2,534
子どもに対する取り組み事業	4/1- 3/31	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	100~9,000	30,000	29,566
市民のアトリエ事業 2010年度ワークショップ	4/9- 12/22	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	500~ 37,000	4,700	4,799
様々な人に開かれた美術館を目指して	6/14- 3/15	主催:横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体)	-	-	120
横浜市芸術文化教育プラットフォーム依頼への取り組み	11/15- 2/2	主催:横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント)、横浜市芸術文化教育プラットフォーム	-	-	364